

[令和7年7月]

花火産業推進プロジェクト

個別事業進捗状況

～「大曲の花火」100回大会を見据えた

グローバルな花火産業基盤の確立～



■目次

事業軸A 伝統文化としての継承、文化的価値の向上

A-1 花火企画展示拡充事業	2
A-2 花火文化体験拡大事業	3
A-3 花火ふるさと教育事業	4
A-4 「大曲の花火」エンターテインメント事業	5
A-5 花火ファン拡大事業	6

事業軸B 国際的に認知され、海外からも訪れやすい環境の実現

B-1 国際花火競技大会出品事業	7
B-2 インバウンド観光環境整備事業	8
B-3 国際花火シンポジウム誘致事業	9
B-4 「大曲の花火」外国語放送事業	10
B-5 大仙おもてなし隊養成講座事業	11

事業軸C 花火大会をはじめとする花火に関するコンテンツの充実

C-1 第100回記念大会開催事業	12
C-2 「大曲の花火」出品業者宿泊施設・大会管理運営施設建設事業	13
C-3 「大曲の花火」デジタル推進事業	14
C-4 花火おみやげ展開事業	15
C-5 クルーズ船花火普及事業	16

事業軸D 花火ブランドによる地域経済への波及拡大

D-1 体験型サービス提供事業者整備事業	17
D-2 イベントホームステイ普及事業	18
D-3 はなび・アムを核としたにぎわい創出事業	19
D-4 花火製造工程自動化・省力化事業	20

事業No.	花火企画展示拡充事業	事業主体	大仙市
A-1	花火伝統文化継承資料館における資料収集や企画展示を、これまでよりも質・量ともに充実させ、当地の花火文化をより多くの方に知っていただく。	記載担当	大仙市花火産業推進課 (花火伝統文化継承資料館)

■事業内容

- (1)花火映像アーカイブ、上映（D-3「はなび・アムを核としたにぎわい創出事業」と連携）
 全国花火競技大会を高精細な映像で記録・保存し、シアターや館内モニターで視聴機会を提供する。
- (2)本館企画展示の拡充
 本館で行う企画展示について、これまでは半年ごとの入れ替えだったが、令和6年度からは4か月ごとの入れ替えにし、回数を増やし、リピーターの来館回数増加を図る。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)花火映像アーカイブ、上映 4K映像	8K映像		はなびシアター映像の更新方針検討	はなびシアター映像の更新
	(2)本館企画展示の拡充 6月,10月,2月入れ替え				
事業費	花火映像アーカイブ 200千円	花火映像アーカイブ 200千円	花火映像アーカイブ 600千円	花火映像アーカイブ 300千円	花火映像アーカイブ 10,300千円
	花火資料企画展示 550千円	花火資料企画展示 550千円	花火資料企画展示 550千円	花火資料企画展示 550千円	花火資料企画展示 550千円
	合計 750千円	合計 750千円	合計 1,150千円	合計 850千円	合計 10,850千円
財源	一般財源 750千円	一般財源 750千円	一般財源 1,150千円	一般財源 850千円	一般財源 10,850千円
目標	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数 24,897 /40,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数 35,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数 36,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数 37,000人	花火伝統文化継承エリア(3、4階)見学者数 38,000人

■前年度実績と今後の計画

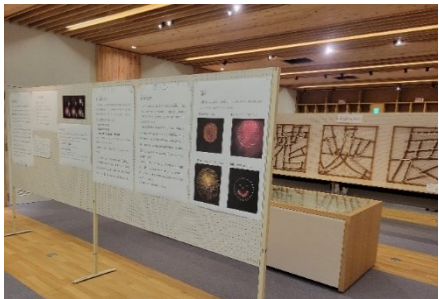
- (1)花火映像アーカイブ、上映（D-3「はなび・アムを核としたにぎわい創出事業」と連携）
 第96回全国花火競技大会の資料映像を4K映像で撮影し3階の大会提供ライブラリーで上映した。より高精細な映像となる8K映像での資料保存及び上映を令和8年度に実施する方向で検討している。
- (2)本館企画展示の拡充
 貴重な保存資料の公開の機会を増やし、来館者の満足度やリピーターの確保に努めるため、年2回だった企画展示を年3回に増やした。小展示や別館の特別企画展の充実を図りながら、引き続き本館の企画展示を年3回実施する。



大仙の偉人と花火大会(R6. 2月～5月)



昼花火のひみつ(R6. 6月～10月)



大会を彩る花火(R6. 11月～R7. 2月)




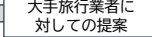
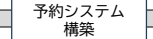
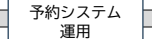

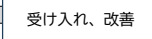
「現代の名工」に選ばれた花火師たち(R7. 3月～6月)

事業No.	花火文化体験拡大事業	事業主体	大曲の花火協同組合
A-2	はなび・アム見学、花火工場見学、模擬花火玉づくり体験、プライベート花火打ち上げなどの花火文化体験を広くPRし、個別、団体旅行における利用に繋げる。	記載担当	大曲の花火協同組合

■事業内容

- (1)新規顧客の獲得、予約システムの導入
- セミナーや旅行商品商談会などの機会をとらえ、大手旅行業者等へのPRにより新規顧客を獲得する。また、予約システムを導入し、受け入れ体制の強化を図る。
- (2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入
- 学校や企業など団体旅行の受け入れを継続し、利用者の意見により内容の改善を図る。また、インバウンド客についても積極的に対応する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画					
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度					
実施内容	(1)新規顧客の獲得、予約システムの導入									
										
										
	(2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入									
										
										
事業費	営業活動費 商談会への参加等	50千円	営業活動費 商談会への参加等	100千円	営業活動費 商談会への参加等	100千円	営業活動費 商談会への参加等	150千円	営業活動費 商談会への参加等	200千円
				多言語パンフレット製作	100千円	予約システムの構築	300千円			
	合計	50千円	合計	100千円	合計	200千円	合計	450千円	合計	200千円
財源	自主財源	50千円	自主財源	100千円	自主財源	200千円	自主財源	450千円	自主財源	200千円
目標	修学旅行受入数	0	修学旅行受入数	3校	修学旅行受入数	5校	修学旅行受入数	5校	修学旅行受入数	5校
	その他団体旅行受入数	7	その他団体旅行受入数	5団体	その他団体旅行受入数	5団体	その他団体旅行受入数	10団体	その他団体旅行受入数	10団体

■前年度実績と今後の計画

- (1)新規顧客の獲得、予約システムの導入
- 旅行会社と連携し、日本の伝統文化の一つである花火をテーマとした総合体験プログラムのツアー造成を行った。また、旅行会社の依頼により、インバウンド観光客向けのモニターツアーを実施したほか、東北観光推進機構主催の商談会にも参加し、花火文化体験プログラムの提案を行った。
- 予約システムについては、今後の受入状況を踏まえながら導入を検討していきたい。
- (2)修学旅行などの団体旅行及び外国人観光客の受入
- 修学旅行については、新型コロナウイルス感染症の5類移行を機に、東京・関西方面への従来型の行程が回復傾向にある。一方、その流れとは逆に首都圏や関西方面から「花火のまち大仙」への修学旅行を積極的に誘致していきたいと考えており、大手旅行会社の社員を集めた研修会を開催する予定である。
- 団体および外国人観光客の受入については、計7団体を受け入れた。特にインバウンド観光客に対しては、通訳スタッフの同行による多言語対応など、受入環境の整備を進めながら対応をおこなった。
- 現在も引き続き、大手旅行会社や観光関連機関との連携を深めながら、受入件数の拡大とプログラムの質的向上を目指している。今後は、SNSや多言語パンフレット等による広報活動を強化し、東北・大仙地域の花火文化を軸とした観光資源の魅力を広く発信していきたい。

日付	受入団体	人数	内容
令和 6年 6月18日	A社人事部	9名	見学
令和 6年 9月10日	大手旅行会社（視察として）	3名	見学・模型玉・花火
令和 6年10月14日	大仙市への移住希望者	2名	見学・模型玉
令和 6年10月17日	新聞大会オプションツアー	12名	見学
令和 6年11月22日	秋田市商工団体	11名	見学・模型玉・講話
令和 7年 3月22日	県内銀行	12名	見学・模型玉
令和 7年 3月21日	外国人観光客	2名	見学・模型玉

令和6年度受入実績

事業No.	花火ふるさと教育事業	事業主体	大仙市
A-3	子どもたちに花火文化を体験する機会を提供し、花火を郷土の文化として認識してもらい、地域の将来の担い手としてのふるさと愛を育む	記載担当	大仙市花火産業推進課

■事業内容

- (1)小学生秋の章観覧
 市内の小学生を対象に、大曲の花火－秋の章－を無料で観覧することができる機会を提供する。
- (2)小学生花火文化体験
 市内の小学生を対象に、はなび・アム見学、花火工場見学、模擬玉づくり、線香花火づくりなどを体験することができる機会を提供する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
スケジュール	(1)小学生秋の章観覧 対象:3, 6年生		対象:3年生		
		(2)小学生花火文化体験 対象:3～6年生			
事業費	小学生秋の章観覧 1,752千円	小学生秋の章観覧 1,800千円	小学生秋の章観覧 1,106千円	小学生秋の章観覧 1,120千円	小学生秋の章観覧 1,120千円
		小学生花火文化体験 229千円	小学生花火文化体験 229千円	小学生花火文化体験 229千円	小学生花火文化体験 229千円
	合計 1,752千円	合計 2,029千円	合計 1,335千円	合計 1,349千円	合計 1,349千円
財源	自主財源 1,752千円	自主財源 2,014千円	自主財源 1,320千円	自主財源 1,334千円	自主財源 1,334千円
		花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円	花火文化体験参加料 15千円
目標	小学生秋の章観覧参加率 14.2 /16%	小学生秋の章観覧参加率 15%	小学生秋の章観覧参加率 17%	小学生秋の章観覧参加率 19%	小学生秋の章観覧参加率 21%

■前年度実績と今後の計画

- (1)小学生秋の章観覧
 1,021人の児童の家庭に学校経由で案内を配布し、151人から参加申込があった。そのうち5人は事前にキャンセルとなったが、児童146人とその保護者、合計292人に無償で秋の章の観覧機会を提供した。今回初めて会場で観覧したという家庭もあり、地域の文化を体験する機会の創出に繋がっているため、今後も継続する。
- (2)小学生花火文化体験
 令和7年度は、秋の章頃に学校経由で募集を行い、11月1日に花火文化体験を行う予定。



事業No.	「大曲の花火」エンターテインメント事業	事業主体	TMO大曲
A-4	花火を題材としてヒット曲、ドラマを制作または制作の協力をし、最終的には花火を題材とした映画製作へ導き、監修協力を「大曲の花火」が担う。	記載担当	F Mはなび

■事業内容

- (1)「花火の思い出」作文コンクール
- 花火にまつわるエピソード、思い出を公募して放送等で発表する
- (2)楽曲制作発表
- 「花火の思い出」を題材とした楽曲を制作し発表する。もしくはその協力をする。
- (3)ラジオドラマ制作放送、映画化
- 「花火の思い出」をラジオドラマ化し放送した上で、それらのエピソードを中心に映画「花火物語」（仮題）を製作する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)「花火の思い出」作文コンクール				
	開催				
	(2)楽曲制作発表		制作、発表		
	(3)ラジオドラマ制作放送、映画化				
	映画制作準備			映画制作	映画発表
			ラジオドラマ放送		
事業費	作文コンクール開催費 30千円	作文コンクール開催費 30千円	作文コンクール開催費 80千円	作文コンクール開催費 80千円	作文コンクール開催費 80千円
			映画制作費 10,000千円	映画制作費 20,000千円	映画制作費 20,000千円
			楽曲制作費 200千円		
	合計 30千円	合計 30千円	合計 10,280千円	合計 20,080千円	合計 20,080千円
財源	F Mはなび自主財源 30千円	放送広告収入 30千円	放送広告収入 600千円	放送広告収入 2,010千円	放送広告収入 2,010千円
			国補助 9,680千円	国補助 18,070千円	国補助 18,070千円
目標	放送広告収入 0 /100千円		放送広告収入 600千円	放送広告収入 600千円	放送広告収入 600千円
			楽曲販売枚数 500枚	楽曲販売枚数 500枚	楽曲販売枚数 500枚

■前年度実績と今後の計画

- (1)「花火の思い出」作文コンクール
- 秋田民報社と共催企画として実施、5作品を入賞作品として放送で朗読、秋田民報の誌面に掲載した。映画のコンテンツとして活用可能と思われる作品もあったが、今後更に集めたい。
- <受賞作品>
- 最優秀賞（10,000円図書券贈呈） 井上友紀「大曲にきた花火」
- 優秀賞（5,000円図書券贈呈） 櫻田展也「花火愛七十年」、隣町のA子「花火大会もついてきた」
- 富山雅人「大切な人に会える日」
- 奨励賞（3,000円図書券贈呈） ペンネーム花子ちゃん「大曲の花火物語」
- (2)楽曲制作発表
- 作文コンクールの内容を踏まえた作品にしたいと考え、当初の計画から1年繰り下げた。
- (3)ラジオドラマ制作放送、映画化
- 映画製作に関するヒヤリングを映画関係者に実施。全体の製作費の目安を3年間で5,000万円とした。

事業No.	花火ファン拡大事業	事業主体	大曲花火倶楽部
A-5	花火に関する基本的な情報やより楽しめる鑑賞のしかたなどを広める活動をととして、花火ファンの拡大を目指す。	記載担当	大曲花火倶楽部

■事業内容

- (1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催
- 全国花火競技大会「大曲の花火」に訪れた観覧客に、日本花火鑑賞士会協力のもと、花火鑑賞士が花火の基礎知識や大会の見どころなどを解説する。
- (2)年間をととした啓発活動の実施
- 花火鑑賞士認定試験、花火鑑賞士のつどい、公開定例会、各種メディアを活用したPR、市内外の各種団体への出前講座を実施する。

■事業計画

	実績		計画		計画		計画		計画	
	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
実施内容	(1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催									
	花火セミナー									
	(2)年間をとした啓発活動の実施									
	花火鑑賞士試験									
	FMIはなび番組									
事業費	花火鑑賞士試験	773千円	花火鑑賞士試験	800千円	花火鑑賞士試験	800千円	花火鑑賞士試験	800千円	花火鑑賞士試験	800千円
	公開定例会	105千円	公開定例会	150千円	公開定例会	150千円	公開定例会	150千円	公開定例会	150千円
			花火鑑賞士のつどい	600千円	花火鑑賞士のつどい	600千円	花火鑑賞士のつどい	600千円	花火鑑賞士のつどい	600千円
	合計	878千円	合計	1,550千円	合計	1,550千円	合計	1,550千円	合計	1,550千円
財源 目標	自主財源	878千円	自主財源	1,550千円	自主財源	1,550千円	自主財源	1,550千円	自主財源	1,550千円
	花火鑑賞士総数	1,554 /1,551人	花火鑑賞士総数	1,631人	花火鑑賞士総数	1,711人	花火鑑賞士総数	1,791人	花火鑑賞士総数	1,871人

■前年度実績と今後の計画

- (1)「大曲の花火」の来訪者を対象にした花火セミナーの開催
- 全国花火競技大会「大曲の花火」開催日、市内3会場で各3回セミナーを開催。どの会場も前年を上回る来場者数となったが、観覧会場の開場時刻が遅くなったことで、早い時間帯の回の集客に影響している会場もあるので、開催時間を検討しながら継続していきたい。
- 【当日の来場者数】 ※（ ）は令和5年の来場者数
- はなび・アム：206人（168人）、大曲技術専門校：275人（220人）、花火庵：213人（146人）



花火セミナー受付（はなび・アム会場）



花火セミナー（はなび・アム会場）

- (2)年間をととした啓発活動の実施
- 20回目となる花火鑑賞士認定試験を実施。定員を超える申し込みがあり、83名が新たに花火鑑賞士となった。会員の活動として、FMIはなびの花火専門番組「花火の星」のパーソナリティ、春夏秋の大会中継解説、全国各地での講演や花火大会審査員なども担っている。今後もさまざまな機会を捉えて「大曲の花火」のPRに努める。

事業No.	国際花火競技大会出品事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-1	大仙産の花火玉と地元花火業者の打上技術を世界に披露し、観光客誘致と「大曲の花火」の海外進出の足がかりとする。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1) モントリオール国際花火競技大会への出品

令和6年モントリオール国際花火競技大会での銅賞を足がかりに「大曲の花火」の国際的知名度の向上を図るとともに、インバウンド誘客の推進や「大曲の花火」ならびに大仙産花火玉の海外進出を促進するため技術力の向上を図る。
- (2) その他国際花火競技大会への出品検討

さまざまな国で開催される花火競技大会の情報を収集し、出品を目指す。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)モントリオール国際花火競技大会への出品 出品(7月)	再出品に向けてのPR → 出品			
		(2)その他国際花火競技大会への出品検討 情報収集、出品検討			
事業費	花火関連経費 31,692千円				
	旅費等 1,031千円				
	合計 32,723千円	合計	合計	合計	合計
財源	主催者負担金 10,957千円				
	会議所自主財源 11,766千円				
	大仙市負担金 10,000千円				
目標	競技大会の成績 銅賞、特別賞/金賞				

■前年度実績と今後の計画

- (1) モントリオール国際花火競技大会への出品

国際化を推進するため7月4日(現地時間)、カナダモントリオールで開催された国際花火競技大会にて、日本代表として日本の伝統文化を象徴する花火を披露した。結果としては銅賞(Bronze Jupiter)を受賞し、さらに環境配慮の取り組みが評価され特別賞(Green initiative)を獲得した。今後は、令和9年の再チャレンジを目指して主催者へのPRを継続する。
- (2) その他国際花火競技大会への出品検討

今回のモントリオール国際花火競技大会への出品を通じて得られたエントリー手続きや輸送、機材の安全基準や管理方法、現地での打ち上げなどの経験をもとに、より確度をもって情報収集を継続し、出品を検討する。



モントリオール国際花火競技大会での「大曲の花火」

現地での「大曲の花火」チーム

事業No.	インバウンド観光環境整備事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-2	公式サイト多言語化、海外からのチケット購入方法確立、スタッフの外国人対応スキルアップなどによりインバウンド受け入れ環境を整備し、交流人口の増加を図る。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1)公式Webサイトリニューアル
「大曲の花火」公式Webサイトを、より情報を取得しやすいビジュアル・構成となるようにリニューアルする。多言語化対応を実現し、インバウンド客をつなぐ革新的なデジタル環境の構築を図る。また、大曲の花火公式スマホアプリの開発、継続的な改善・機能拡充を行い、恒久的な運用体制を構築する。情報の提供をさらに充実させ、国内外の観客がより便利に利用できる環境を整備する。
- (2)海外からの観覧チケット購入システム構築（公式アプリ追加）
「大曲の花火」をよりグローバルにするための基盤となる公式スマホアプリが本格的に稼働後、よりスムーズで信頼性の高いチケット購入環境を整備し、国内外の観客が快適に利用できる仕組みを構築する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)公式サイトリニューアル → リニューアル検証 →	コンテンツ改訂 リニューアル			
	(2)海外からの観覧チケット購入システム構築 → 公式アプリ導入 →	運用、改善	バージョンアップ	プロモーション推進	
事業費	公式アプリ製作費 5,000千円	公式アプリ及びWebサイト改修 10,000千円	公式アプリ及びWebサイト改修 8,000千円	整備費・企画費 5,000千円	整備費・企画費 5,000千円
財源	会議所 自主財源 5,000千円	会議所 自主財源 10,000千円	会議所 自主財源 8,000千円	会議所 自主財源 5,000千円	会議所 自主財源 5,000千円
目標		公式サイト海外からのアクセス数 20,000	公式サイト海外からのアクセス数 25,000	公式サイト海外からのアクセス数 30,000	公式サイト海外からのアクセス数 35,000

■前年度実績と今後の計画

- (1)公式サイトリニューアル
デジタル化により顧客接点の実現をより強化していくため、公式のアプリを構築し先行してリリースし、第96回全国花火競技大会での利用に合わせて8月26日より所定のサイトからダウンロードによる提供が開始された。
令和6年度総ダウンロード数 約23,700
公式サイトリニューアルはグローバルなアクセスを可能にするため多言語機能を組み込み令和7年度中に実施する。
- (2)海外からの観覧チケット購入システム構築
基盤となる公式アプリを恒久的に運用することを優先しアプリ機能を充実させるべく、継続的な改善と拡張を計画してチケット購入を含む様々な機能のさらなる向上を目指す。

2025年完成予定の新システム [全体図]

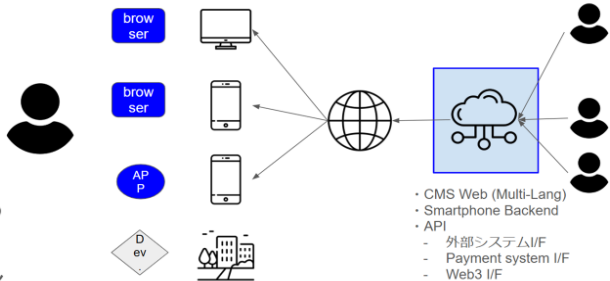
2025-2026年度のスコープ

1. **スマホアプリ 恒久化**
(公式スマホアプリの恒久化)
2. **Webサイト リニューアル**
(コンテンツ改定等の運用の簡易化)
3. **バックエンドシステム 導入**
(履歴保存等、サーバ他を含んだシステム構築)

2025年度で1. スマホアプリと、2. Webサイトのリニューアルを完成させる。

2025—2026年度で完成の、3. デジタルバックエンドシステムは 外部接続可能なAPIやインターフェースをそなえ、リアルとデジタルを柔軟に連携したさまざまなサービスの実現を目指している。

全体の構造 新システム（2025/5月）



事業No.	国際花火シンポジウム誘致事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
B-3	令和10年をターゲットに大仙市で国際花火シンポジウムを再度、誘致開催することで、世界的な知名度のさらなる向上及び第100回大会記念イヤーの機運を高める。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1)誘致活動
- 令和10年の大仙市でのISF開催に向けて、誘致活動を行う。
- (2)開催準備、運営
- 現地実行委員会を立ち上げ、国際本部と連携しながら受け入れの準備を行う。開催期間中も参加者の滞在がより良いものとなり、今後のインバウンド観光の増加に繋がるよう、対応する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)誘致活動 開催申込対応、PR活動	PV作成 19thISFでの誘致活動	視察受入 20thISFでの誘致活動		
		(2)開催準備、運営 情報収集、方針検討	実行委員会立ち上げ	開催準備	21stISF開催
事業費		旅費、登録料 2,149千円 PV作成費 363千円 合計 2,512千円	旅費、登録料 6,000千円 合計 6,000千円	合計 6,000千円	合計 6,000千円
財源		会議所自主財源 2,512千円	会議所自主財源 3,000千円 市一般財源 3,000千円		
目標			誘致の成否 誘致決定		海外からのISF参加登録者数 300人

■前年度実績と今後の計画

- (1)誘致活動
- 令和6年度は、令和7年4月開催の第19回国際花火シンポジウム（中国、醴陵市）への参加、事例発表の準備を行った。令和7年4月22日、「国際花火シンポジウムにより促進された『大曲の花火』の国際化と花火産業発展のための多様な取り組み」という表題で齋藤会頭が事例発表を行い、シンポジウムを通じて得られた成果と、地域産業のさらなる発展に向けた具体的なアプローチを報告した。さらに2028年を目標にした誘致活動を積極的に展開し、国際的な観客層を取り込み、地域経済への貢献を視野に入れた戦略的なPRを実施した。
- (2)開催準備、運営
- 国際花火シンポジウム協会の日本担当理事である東京大学新井名誉教授からその都度情報をいただき、協会が求めるシンポジウムの在り方を念頭に置きながら、当地での開催場所や手法について継続的に検討を行う。



第19回国際花火シンポジウム I S F 中国での様子

事業No.	「大曲の花火」外国語放送事業	事業主体	TMO大曲
B-4	「大曲の花火」開催時に行っている放送を外国語でも制作し、インターネットで放送することで、外国人客の利便性を高める。	記載担当	F Mはなび

■事業内容

- (1)外国語放送担当者選出育成
- 英語、韓国語、中国語などの外国語での放送を担当する人材を選出し、育成する。
- (2)インフォメーション放送
- F Mはなびで「大曲の花火」観覧席や周辺案内などのインフォメーションを外国語で放送する
- (3)実況中継放送
- F Mはなびもしくはネット放送で「大曲の花火」実況中継を外国語で放送する

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)外国語放送担当者選出育成 選出(英語)	選出(英語) 育成(英語)		選出(韓中) 育成(韓中)	
	(2)インフォメーション放送 試験放送	本格放送			
	(3)実況中継放送	仕組み構築・試験放送	本格放送		
事業費	番組制作費 631千円	番組制作費 650千円	番組制作費 900千円	番組制作費 1,050千円	番組制作費 1,750千円
		人件費 100千円	人件費 1,200千円	人件費 1,300千円	人件費 2,400千円
		育成費 50千円		育成費 50千円	育成費 50千円
	合計 631千円	合計 800千円	合計 2,100千円	合計 2,400千円	合計 4,200千円
財源	広告及び売上収入 631千円	広告及び売上収入 800千円	広告及び売上収入 800千円	広告及び売上収入 900千円	広告及び売上収入 2,600千円
			国補助財源 1,300千円	国補助財源 1,500千円	国補助財源 1,600千円
目標	外国語放送担当者 1 /1名 アプリ放送アクセス数 736 /1507人	外国語放送担当者 1名 アプリ放送アクセス数 1,100人	外国語放送担当者 1名 アプリ放送アクセス数 1,100人	外国語放送担当者 2名 アプリ放送アクセス数 1,100人	外国語放送担当者 2名 アプリ放送アクセス数 1,100人

■前年度実績と今後の計画

- (1)外国語放送担当者選出育成
- 放送経験者であり、英会話も可能なボランティアスタッフ（ECC講師佐々木千秋さん）を選出した。花火鑑賞士でもあり、十分な技能と知識をすでに持っていたため、特に育成は必要としなかった。市内在住の外国人スピーカーについても選定、育成を図っていく。
- (2)インフォメーション放送
- 放送においては、特に反響を得られなかったもので、適当な放送日時の検討・研究を進めたい。放送で使用した音声の花火大会関連会場（「花火ウィーク」など）で流し、反応を見た結果、会場のアジア人観光客から良い反響の情報を得た。
花火大会当日のアプリ放送アクセス数は、全て外国アナウンスの影響とは言えないが、今後の目標設定値に反映させた。
- (3)実況中継放送
- 現場の実況放送（日本語）と並走する為の、ネットワークの仕組みを、引き続き研究構築したい。



外国語放送担当者として選定した佐々木千秋さん

事業No.	大仙おもてなし隊養成講座事業	事業主体	TMO大曲
B-5	増加しているインバウンド客に対応するため、英会話や大仙市の地域・文化について学ぶ講座を開催し、オール大仙でのおもてなしを実現する。	記載担当	ペアール大仙

■事業内容

(1)国際花火シンポジウム(ISF)時のおもてなし隊

ISF会場や市街地などに訪れる多くの外国人関係者への円滑な案内対応ができるように英会話や大仙市の地域・文化等について学ぶおもてなし隊養成講座を開設し、そこで得た知識技能を活用しながらオール大仙でのおもてなしを実現する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)ISF時のおもてなし隊				
	<div>指導者の選定、打診</div> <div> <div>前回ISF協力者への情報提供</div> <div>養成講座 9～3月</div> <div>ISF時参加者案内</div> </div>				
事業費				おもてなし隊養成講座実施経費 720千円	ISF時参加者案内経費 60千円
財源				ISF現地実行委員会委託料 720千円	ISF現地実行委員会経費 60千円
目標				おもてなし隊講座受講者数 30人	おもてなし隊人数(研修講師を含む) 35人

■前年度実績と今後の計画

(1)国際花火シンポジウム(ISF)時のおもてなし隊

指導者の選定と打診を行い、前回ISF時の講座講師2人と、新たに1人の方から内諾をいただくことができた。また、おもてなし隊のリーダー候補者として前回ISF時の講座受講者への情報提供を行った。



平成29年の国際花火シンポジウムで活躍したボランティアの皆さん

事業No.	第100回記念大会開催事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
C-1	令和10年の第100回大会を日本最高峰の花火競技大会の節目としてふさわしい大会とし、世界に誇る伝統文化「大曲の花火」の存在感を国内外に示す。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

(1)第100回大会準備、運営

実行委員会において、記念すべき大会としてふさわしい内容となるように、打上会場や観覧会場、交通、駐車場などさまざまな場面における改善サイクルをこれまで以上に推進する。また、記念大会企画について検討を進める。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)第100回大会準備、運営 企画検討	準備 大曲の花火師カード作成・販売	アップデート		100回大会実施
事業費		大曲の花火師カード作成費 1,200千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円 会議・調査 500千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円 会議・調査・旅費 1,000千円	大曲の花火師カード作成費 1,200千円 100回大会関連経費 600,000千円
財源目標		会議所自主財源 1,200千円	会議所自主財源 1,700千円	会議所自主財源 2,200千円	会議所自主財源 601,200千円

■前年度実績と今後の計画

(1)第100回大会準備、運営

花火師さんを大切にする機運醸成の取り組みとして大会の象徴である花火師の皆さんへの感謝と尊敬の気持ちを広く共有するため、大曲の花火師カードを制作（30種類）。このカードには、それぞれの花火師の方々の紹介やPRを盛り込み、観客との新たなつながりを生むツールとして活用する計画。これらの取り組みを通じて、「大曲の花火」第100回大会が歴史と未来をつなぐ、より特別なイベントとなることを目指す。



大曲の花火師カード（左：レア、右：各社のカード例）

事業No.	「大曲の花火」出品業者宿泊施設・大会管理運営施設建設事業	事業主体	大曲商工会議所
C-2	花火師が自ら打ち上げる競技大会である全国花火競技大会の開催を今後も継続し、大会管理運営の集約強化を図るための施設を建設する。	記載担当	大曲商工会議所

■事業内容

- (1) 施設建設
- 鉄鋼造地上6階建、50部屋で最大156名が宿泊可能な施設を計画通り建設する。
- (2) 施設完成後の活用
- 出品業者宿泊施設・大会管理運営施設として活用すると共に、それ以外の時期は一般の宿泊者も受け入れ、地域経済活性化を図る。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)施設建設 ■ 建設工事 →				
		(2)施設完成後の活用 ■ 花火大会での活用、一般宿泊客の受け入れ →			
事業費	工事費等 1,150,000千円				
財源	会議所 自主財源 150,000千円				
	借入金 1,000,000千円				
目標	工事進捗率 100 /100%				

■前年度実績と今後の計画

(1) 施設建設

R7

2月28日 完成検査
3月 5日 建物引渡し
4月12日 竣工式
4月13日・23日・5月10日 完成内覧会
4月14日～16日 試泊会
4月24日 プレオープン
7月 上旬 フルオープン

(2) 施設完成後の活用

全国花火競技大会時は花火師・審査委員等の宿泊として利用する。花火大会に関するイベント（花火見本市、プライベート花火）を企画するとともに、様々なイベントで活用してもらうようPRをし、地域経済活性化を図っていく。



外観



6階の食堂

事業No.	「大曲の花火」デジタル推進事業	事業主体	「大曲の花火」実行委員会
C-3	デジタル技術を活用し、より多様なターゲットに向けての新たな情報発信や、実際に来訪する方の利便性向上を図る。	記載担当	大仙市花火産業推進課

■事業内容

- (1)チャットボット導入
- 「大曲の花火」に関する問い合わせ対応にチャットボットを活用し、より円滑な案内及びスタッフの労力削減を図る。
- (2)デジタルマップ導入
- 紙媒体での案内マップだけでなく、Googleマップなどのサービスを活用し、より利便性や精度の高い情報を提供する。
- (3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大
- インターネットを活用した駐車場シェアリングサービスについて、企業や一般家庭向けにPRすることで、民間駐車場の拡大を図る。

■事業実績、計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)チャットボット導入				
	導入・運用	運用・改善			
	(2)デジタルマップ導入				
	導入・運用	運用・改善			
(3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大					
	PR				
事業費	チャットボット経費 110千円	チャットボット経費 99千円	チャットボット経費 99千円	チャットボット経費 99千円	チャットボット経費 99千円
財源	「大曲の花火」実行委員会委託料 110千円	「大曲の花火」実行委員会委託料 99千円	「大曲の花火」実行委員会委託料 99千円	「大曲の花火」実行委員会委託料 99千円	「大曲の花火」実行委員会委託料 99千円
目標	チャットボット対応件数 22,805 /50件	チャットボット対応件数 25,000件	チャットボット対応件数 26,000件	チャットボット対応件数 27,000件	チャットボット対応件数 28,000件
	駐車場シェアリングサービス民間台数 419 /250台	駐車場シェアリングサービス民間台数 500台	駐車場シェアリングサービス民間台数 600台	駐車場シェアリングサービス民間台数 700台	駐車場シェアリングサービス民間台数 800台

■前年度実績と今後の計画

- (1)チャットボット導入
- 導入初年度であったが、対応件数は想定を大きく超え、そのうち7割弱が内容に満足しているというアンケート結果であった。問い合わせ対応の効率化に繋がっていると思われるため、今後も改善しながら継続していく。
- (2)デジタルマップ導入
- 仮設トイレやゴミ箱の位置など、これまで知る手段がなかった情報を提供したことで、来訪者から好評だった。喫煙場所など要望があった場所のマップ追加を検討する。
- (3)駐車場シェアリングサービスによる民間駐車場の拡大
- 不動産業者向けの説明会を開催するなど、民間予約可能駐車場の増加に取り組み、目標を超える台数がインターネットに掲載された。今後もサービス提供会社と連携し、取り組みを進める。

チャットボット

デジタルマップ

事業No.	花火おみやげ展開事業	事業主体	大仙市観光物産協会
C-4	これまでにない定番花火お土産品の開発・販売により、当該商品や関連する花火商品の売り上げによる経済効果、PR効果を狙う。	記載担当	大仙市観光物産協会

事業内容

(1)オリジナル花火商品の開発・販売
今後の花火大会需要の増加を見据え、今までに無いお土産品となる花火グッズの開発・販売を行うことにより地域への経済効果を高める。

事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)オリジナル花火商品の開発・販売				
	<div>商品開発・販売</div> <div>販促</div>				
事業費	商品開発 100千円	商品開発 100千円	商品開発 100千円	商品開発 100千円	商品開発 100千円
			商品販促 100千円	商品販促 100千円	商品販促 100千円
	合計 100千円	合計 100千円	合計 200千円	合計 200千円	合計 200千円
財源	自主財源 100千円	自主財源 100千円	自主財源 200千円	自主財源 200千円	自主財源 200千円
目標		オリジナル商品の開発 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上	オリジナル商品の開発 1商品以上
			オリジナル商品売上 商品内容により決定	オリジナル商品売上 商品内容により決定	オリジナル商品売上 商品内容により決定

前年度実績と今後の計画

(1)オリジナル花火商品の開発・販売
令和6年度は、「大曲の花火」のロゴを使用したトートバッグをテスト的に製作・販売を行った。販売実績としては、特に花火大会の前後期間に売り上げが伸び、今後の商品展開に向けて好感触を得る結果となった。新商品開発と並行して既存商品による土産品をラインナップしたい。
【令和6年度販売実績】販売期間 R6.5.20～
売上額 78,500円(@500円×157)



令和6年度に販売したトートバッグ

事業No.	クルーズ船花火普及事業	事業主体	大曲の花火協同組合
C-5	クルーズ船寄港時の花火観覧について、より多くのツアーにおいてコンテンツとして取り入れられるように、ツアー催行主等へのPRを行う。	記載担当	大曲の花火協同組合

■事業内容

- (1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR
- 県主催の商談会において、旅行会社やクルーズ船会社へのPRを行うことで、新たな打上機会を創出する。
- (2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ
- 秋田港や宮古港、宮崎港においてクルーズ船寄港時の花火打ち上げを行い、「大曲の花火」をPRすることで全国花火競技大会をはじめとした花火イベントへの誘客を図る。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR				
	クルーズ船会社への商談				
	県主催の商談会への参加				
	(2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ				
	花火打ち上げ				
事業費	営業活動費 200千円	営業活動費 200千円	営業活動費 200千円	営業活動費 200千円	営業活動費 200千円
財源	自主財源 200千円	自主財源 200千円	自主財源 200千円	自主財源 200千円	自主財源 200千円
目標	打上げ回数 5 /4回	打上げ回数 2回	打上げ回数 4回	打上げ回数 6回	打上げ回数 8回

■前年度実績と今後の計画

- (1)新たなクルーズ船打上機会の創出を目指したPR
- 福岡市に本社を構えるジャパネットツーリズムを訪問し、秋田港寄港時のお客様へのサプライズ演出として花火の打上げを提案したところ前向きな反応を得たが、しかし、打上げ場所の環境上の問題により実現には至らなかった。
- (2)秋田港及び大仙市と有縁交流を結んでいる地域でのクルーズ船花火打上げ
- 秋田港での打上げについては、環境上の制約により実施が不可能となったため、今後は能代港や船川港での打上げを提案していく方針である。
- また、大仙市の友好交流都市である岩手県宮古市より、クルーズ船寄港時の花火打上げの依頼を受けた実施した。今後は、自治体だけでなく船会社に対しても積極的にアプローチを行い、打上げの機会を広げていきたい。

日付	打上場所	クルーズ船名
令和 6年 3月22日	秋田港（秋田県秋田市）	アザマラ・ジャーニー
令和 6年 5月31日	秋田港（秋田県秋田市）	ヘリテージ・アドベンチャラー
令和 6年 6月 7日	秋田港（秋田県秋田市）	ハンセアティック・スピリット
令和 6年 7月28日	宮古港（岩手県宮古市）	帆船「日本丸」
令和 6年10月12日	秋田港（秋田県秋田市）	クァンタム・オブ・ザ・シーズ
令和 6年10月18日	秋田港（秋田県秋田市）	ノールダム
令和 6年10月27日	秋田港（秋田県秋田市）	ノルウェージャン・スピリット

令和6年打上実績

事業No.	体験型サービス提供事業者整備事業 ～交流人口拡大事業～	事業主体	大仙市商工会
D-1	酒蔵や農業体験など、市内に点在する体験型サービスを提供する事業者を結びつけ、統一ツールなどを活用しながら誘客を行うことで、花火大会時等の滞在時間延長に繋げる。	記載担当	大仙市商工会

■事業内容

- (1) 体験型等サービスの確立
 市内事業者（商工会員以外を含む）の中から、既存の体験型等サービスを提供している事業者を洗い出し、体験型観光コンテンツとなり得るサービスの選定を行う。
 選定したコンテンツ候補が持つ潜在的な魅力や商品としての価値、将来性等を評価するため、専門家等によるモニタリング調査を実施する。
- (2) 事業PR活動
 誘客促進や観光消費の拡大を図るため、既存の情報発信サイト（HP）に加え、SNSなどのPRツールを活用した情報発信を強化する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)体験型等サービスの確立 プロジェクト会議開催 ・地域資源の整理 ・事業者の洗い出し ・今後の展開	・サービスの選定 ・モニタリング	・成果検証 ・新たなサービス・事業者選定 ・参画事業者間の連携検討		
	(2)事業PR活動 HPリニューアル	新たなPRツール制作、運用	運用・改善		
	情報発信				
事業費	PJ会議費 184千円	運営活動費 300千円	運営活動費 200千円	運営活動費 200千円	運営活動費 200千円
	PRツール作成費 1,823千円	PRツール制作費 220千円	PR運用費 100千円	PR運用費 100千円	PR運用費 100千円
	合計 2,007千円	合計 520千円	合計 300千円	合計 300千円	合計 300千円
財源	【県連合会補助金】 商工会独自戦略実現化事業費補助金 125千円	【県連合会補助金】 商工会独自戦略実現化事業費補助金 250千円	自主財源 300千円	自主財源 300千円	自主財源 300千円
	伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金 1,823千円	自主財源 270千円			
	自主財源 59千円				
目標	参画事業者数(累計) 4 /3事業者	参画事業者数(累計) 5事業者	参画事業者数(累計) 7事業者	参画事業者数(累計) 9事業者	参画事業者数(累計) 11事業者
		HP等による情報発信 3回	HP等による情報発信 5回	HP等による情報発信 7回	HP等による情報発信 9回

■前年度実績と今後の計画

- (1) 体験型等サービスの確立
 専門家や行政、商工業者の参画によるプロジェクト会議を開催し、地域資源の整理と活用策、体験型サービスの方向性について検討した。豊かな自然環境で育まれた一次産品と、いぶりがっこや地酒等発酵食品、さらに、年間を通して打ち上がる花火イベントを組み合わせ、「食×農×観」をテーマとした体験型等サービスを検討していく。
- (2) 事業PR活動
 「食」と「農」を通じ、事業者の販路拡大と誘客促進に繋げるため、本会ホームページ内にある情報発信サイトをリニューアルした。新たなPRツールの作成により、SNSによる情報発信を強化するとともに、関係団体や各事業者のホームページとの相互リンクなど連携強化に努める。



プロジェクト会議の様子



リニューアルした情報発信サイト

事業No.	イベントホームステイ普及事業	事業主体	大仙市観光物産協会
D-2	自宅提供者の拡大や宿泊手続きの改善を行うことにより、「大曲の花火」開催時の宿泊先不足を補い、滞在時間の延長や交流人口の拡大に繋げる。	記載担当	大仙市観光物産協会

■事業内容

- (1)民泊事業の推進
 新型コロナウイルスの影響により住宅提供者及び、宿泊希望者ともにマインドが著しく低下しており、住宅提供者の増加とともに宿泊希望者についても増加を図る。そして事業拡大とともに、一部手数料徴収により事務費の捻出を検討しながら、自走化を目指す。
- (2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収
 自走化に向けた斡旋手数料徴収のため、協会で旅行業務取扱管理者確保及び旅行業登録を目指す。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)民泊事業の推進				
	住宅提供者、宿泊希望者の募集・マッチング				
	(2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収				
	旅行業務取扱管理者の確保・旅行業登録			手数料徴収に向けた調整	手数料徴収
事業費	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円	民泊事業諸費 154千円
財源	市委託料 154千円	市委託料 154千円	市委託料 154千円	市委託料 154千円	市委託料 100千円
					斡旋手数料 50千円
目標	民泊利用者 33 /40人	民泊利用者 60人	民泊利用者 70人	民泊利用者 80人	民泊利用者 100人

■前年度実績と今後の計画

- (1)民泊事業の推進
 宿泊者数については、目標値の約8割を達成しているものの目標値にはおよんでいない、受け入れ先となる自宅提供希望者が不足しているため、今後の宿泊者数のさらなる増加は難しいと見込まれる。今後の計画としては、宿泊希望者の増加を図るための広報活動に加え、自宅提供希望者の発掘・募集活動に重点を置いて取り組みを行う。特に、花火観覧会場周辺では自宅提供希望者が少なく、会場から離れた宿泊先においては、交通アクセスの不便さが課題となっている。
- (2)自走化に向けた斡旋手数料の徴収
 今後、斡旋手数料の徴収を伴う形で宿泊料金の増額が想定されますが、宿泊に対するニーズは依然として高いため、一定の料金増については受け入れられると考えられる。令和10年度を見据え、早期に斡旋手数料を反映した宿泊料金の見直し・設定を進める。あわせて、協会としては旅行業務取扱管理者の確保および旅行業登録の早期達成を目指す。
 【令和6年度実績】・自宅提供者 4軒(内1軒マッチングなし)
 ・利用団体数 16団体 (内1団体キャンセル)
 ・利用人数 35名(内2名キャンセル)
 利用料金については自宅提供者が任意に設定、利用実績があった3軒は1名10,000円で実施した。

事業No.	はなび・アムを核としたにぎわい創出事業	事業主体	大仙市
D-3	はなび・アムにおいて、市民をはじめ来館者からの要望が多い、飲食やお土産購入が可能な環境を整えることで、大仙市の玄関口としてのにぎわい創出を図る。	記載担当	大仙市花火産業推進課 (花火伝統文化継承資料館)

■事業内容

- (1)利用者ニーズに合わせた環境整備
- 花火グッズ販売や飲食スペースを臨時に設置し、利用状況やアンケート調査を踏まえて今後の環境整備方針を決定し、実施に移す。
- (2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進
- 周辺で開催される催しに合わせ、はなび・アムでもイベントを実施することで集客の相乗効果を図り、彩色千輪プロジェクトや大仙市観光物産協会と連携し、来館者の周辺施設への周遊も促す。また、館内や駐車場をイベントスペースとして提供することで賑わいを創出する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)利用者ニーズに合わせた環境整備				
	飲食スペース臨時設置	花火グッズ販売、飲食スペース臨時設置		〔環境整備〕	
	アンケート調査	方針検討			
	(2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進				
	・イベント開催、周遊促進 ・イベントスペースの提供				
事業費	イベント開催 35千円	イベント開催 50千円	環境整備 未定	環境整備 未定	イベント開催 開館10周年イベント 500千円
			イベント開催 50千円	イベント開催 100千円	
	合計 35千円	合計 50千円	合計 (50千円)	合計 (100千円)	合計 500千円
財源	市一般財源 35千円	市一般財源 50千円	市一般財源 (50千円)	市一般財源 (100千円)	市一般財源 500千円
目標	イベント参加者数 623 /600人	イベント参加者数 700人	イベント参加者数 800人	イベント参加者数 900人	イベント参加者数 1,000人

■前年度実績と今後の計画

- (1)利用者ニーズに合わせた環境整備
- アンケート結果により要望の多かった飲食スペースを別館に設置した。お土産となる花火グッズ購入の要望もあり、令和7年度中の設置を目指す。
- (2)周辺の催しに合わせたイベント開催、周遊促進
- 毎月開催している「花火の日」イベントを民間団体や研修室を利用している団体と連携して実施した。秋田犬保存会や婚活イベントに会場スペースを提供したほか、丸子川ナイトマーケットなど周辺で開催するイベントに来場者駐車場を提供しており、はなび・アムとその周辺地域の賑わい創出に寄与している。令和7年度以降についても継続して実施する。



花火柄草木染体験



8ミリフィルム映像上映会



秋田犬ふれあいコーナー



クリスマス飾り作り

事業No.	花火製造工程自動化・省力化事業	事業主体	株式会社花火創造企業
D-4	新たな自動化や省力化に繋がる装置を開発・販売し、今後予想される慢性的な人手不足の解消及び装置販売による市内企業収益の拡大を図る。	記載担当	株式会社花火創造企業

■事業内容

- (1)新たな装置の開発
- 工程自動化や省力化に繋がる新たな装置を開発・販売し、今後予想される慢性的な人手不足の解消及び装置販売による市内企業収益の拡大を図る。
- (2)自動玉貼り装置の販売
- すでに商品化している自動玉貼り装置（FB-150A）を全国の花火業者に向け販売する。

■事業計画

	実績	計画	計画	計画	計画
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
実施内容	(1)新たな装置の開発				
	7号玉用自動玉貼り装置部品開発				
		配合工程検討	配合工程設計		販売
					仕込み工程検討
事業費	(2)自動玉貼り装置の販売				
	販売				
				開発費	3,000千円
				自主財源	2,000千円
財源				補助金	1,000千円
目標	玉貼り装置販売数 7 /5台	玉貼り装置販売数 5台	玉貼り装置販売数 5台	玉貼り装置販売数 5台	玉貼り装置販売数 5台
				配合装置 製品化	配合装置販売数 2台

■前年度実績と今後の計画

- (1)新たな装置の開発
- 現状の自動玉貼り装置は2号玉～5号玉までに対応しているが、多くの花火業者より大玉までを貼れる機械の要望があった。現在既存の装置を改良するだけで7号玉まで貼れる装置の開発をおこなっており令和7年度中には完成予定ある。配合工程の機械化については、完全な自動化には多くの課題が伴うため、今後は慎重に検討を進めていきたい。
- (2)自動玉貼り装置の販売
- 福岡県2台（同一業者）、新潟県、長野県、千葉県、山形県、宮崎県に各1台。合計7台を販売。令和7年度については秋田県1台、福島県2台（同一業者）、静岡県1台の見積依頼を受けている。



技術指導の様子

■重要業績評価指標 K P I の状況

花火関連SNSフォロワー数

「大曲の花火」実行委員会、花火会社、はなび・アム、大曲花火倶楽部等の花火関連団体が運営するFacebook、Instagram、X、YoutubeなどのSNSフォロワー数の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[人]	31,974	37,573				45,000
達成率[%]	0	43.0				100

外国人市内宿泊者数

市内宿泊施設に宿泊した外国人客の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[人/年]	2,139	2,318				3,500
達成率[%]	0	13.2				100

市内花火会社煙火売上額

市内花火会社の煙火売上額の合計

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[億円/年]	12.2	15.2				19.2
達成率[%]	0	42.9				100

平常時と「大曲の花火」開催時の滞在人口比較

大曲駅前半径500m以内の地域人口と「大曲の花火」（春夏秋）開催時の滞在人口の比較

	基準値 R5	R6	R7	R8	R9	目標値 R10
数値[倍]	10.3	10.9				13.3
達成率[%]	0	20.0				100